54: the title of device [STRUCTURE OF SIDE RAIL OF UNDERCARRIAGE]

57: [CLAIMS]

A structure of side rail of undercarriage, comprising:

cross member transversely disposed between side rails of undercarriage having =-shaped cross section with rivet; and

main bolster being disposed upper side surface of the side rail,

wherein the upper side surface of the side rail, which is connected to the main bolster, is recessed partially, and

ends of the cross member being coupled with the rivet in the recessed part of the upper side surface of the side rail, and thus the rivet avoids interference in the main bolster.

⑩ 公開実用新案公報 (U)

昭58—3375

(1) Int. Cl.³ B 62 D 21/02 識別記号

庁内整理番号 8108-3D ❸公開 昭和58年(1983)1月10日

審查請求 未請求

(全 2 頁)

Ø車台のサイドレール構造

願 昭56-97338

愈出 願 昭56(1981)6月30日

70考 案 者 飯合辰夫

②実

川崎市中原区大倉町10番地三菱

砂実用新案登録請求の範囲

断面コ字形状の車台サイドレール間にリベットを介してクロスメンバを横設すると共に、同サイドレール上側面に縦根太を載置したものにおいて、上記縦根太に接する上記サイドレール上側面を部分的に陥没させ、同陥没部において上記クロスメンバ端部をリベット結合することにより同リベットが上記縦根太に干渉しないように構成したこと

自動車工業株式会社東京自動車 製作所川崎工場内

仰出 願 人 三菱自動車工業株式会社

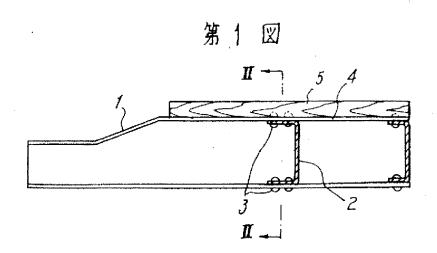
東京都港区芝5丁目33番8号

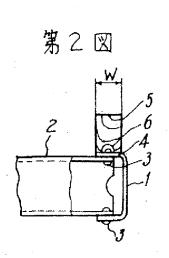
郊代 理 人 弁理士 廣渡禧彰 外1名

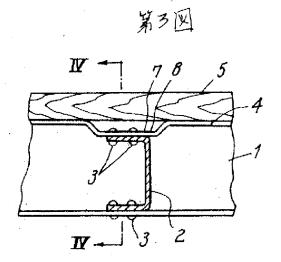
を特徴とする車台のサイドレール構造。 図面の簡単な説明

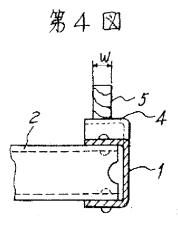
第1図は従来装置における側面図、第2図は第 1図のⅡ-Ⅱ線における矢視断面図、第3図は本 考案の実施例における要部拡大側面図、第4図は 第3図のⅣ-Ⅳ線における矢視断面図である。

1;サイドレール、2;クロスメンバ、3;リベツト、7;陥没部、5;縦根太。









公開美用 昭和 58-133/5



(4,700[4])

実用新案登録願(タ)核記号なし 昭和56年(月)0日



特許庁長官殿

ンヤダイ 車台のサイ

JF 冬

考案の名称

カクサキシナかハラクオオクラチョウ 神奈川県川崎市中原区大倉町 10 番地

所(居所) (i:

三菱自動車工業株式会社東京自動車製作所川崎工場內

オ \mathcal{F}_{1} 名 辰 夫

実用新案登録出願人

東京都港区芝五丁目33番8号 住 所

(628) 三菱自動車工業株式会社 **Z**1 林

堆 代表者 条 셎

Ă. 11

> 東京都港区芝五丁目33番8号 Pir {E

> > 三菱自動車工業株式会社内(電 455-1011)

(6528) 炸雞士 演 渡 Æ

添付書類の目録

(1) 明 細 1通

1通 (2) [4] ıtii

1 通 (3) が 担 状

1通 (4) 難舊關本

836

56 097338

方 式

実開58-3375 山1

前記以外の考案者、実用新案登録出願人または代理人

考 案 者

住 所

氏 名

代 理 人

任 所 東京都港区芝五丁目33番8号

三菱自動車工業株式会社内(電 455-1011)

氏 名 (6627) 弁理士 日 昔 吉 武

明 細書

考案の名称
車台のサイドレール構造

2

- 実用新案登録請求の範囲 断面コ字形状の車台サイドレール間にリベットを 介してクロスメンバを横設すると共に、同サイド レール上側面に縦根太を軟置したものにおいて、 上記縦根太に接する上記サイドレール上側面を部 分的に陥没させ、同陥没部において上記クロスペ ンバ端部をリベット結合することにより同リベットが上記縦根太に干渉しないように構成したこと
- 3. 考案の詳細な説明 本考案は車台のサイドレール構造に関するものである。

を特徴とする車台のサイドレール構造

従来第1,2図に示す如く、トラツクの車台サイドレール1間にクロスメンバ2がリベツト3結合される。そして上記レール1は断面コ字形状をなし、その上側面4には縦根太5(以下根太という)

公開実用 昭和 58-3375



が載置されない荷箱が設けられるように なつて、上側面4の巾には重量 化による一定の制限があり、リペントンは があるが、リッシンにはがいた。 はりべったが、ところが、他 はずるを形成していた。 とが穴るを形成するためそれだけ根太が となってしまい、 さくなってしまい、 になり、コストを高める不具合があった。

本考案は上記鑑みて工夫されたものであり、第3、4図に示す実施例にもとづいて説明すると、7はサイドレール1上側面2に陥没させて平担面8を形成した陥没部であり、クロスメンバ2端部をサイドレール1に結合する場合、陥没部7の平担面8とサイドレール1の下側面9との間にクロスメンバ2を挟んでリベット3結合する。

本実施例は上記したように、サイドレール1の上 側面4の一部に陥没部7を形成しているため、リベット3が根太5下面に干渉することがない。そ のため、上記従来のように、リベット用の逃げ穴

6を根太5形成する必要はなく、その結果根太5 の由来を従来に比べて小さくすることができるの で根太5の重量を小さくでき,ひいては車重の軽 減およびコストの低減を図れる効果を有する。

図面の簡単な説明 4.

> 第1図は従来装置における側面図、第2図は第1 図のⅡ-Ⅱ線における矢視断面図、第3図は本考 案の実施例における要部拡大側面図, 第4図は第 3 図のIV - IV 線における矢視断面図である。

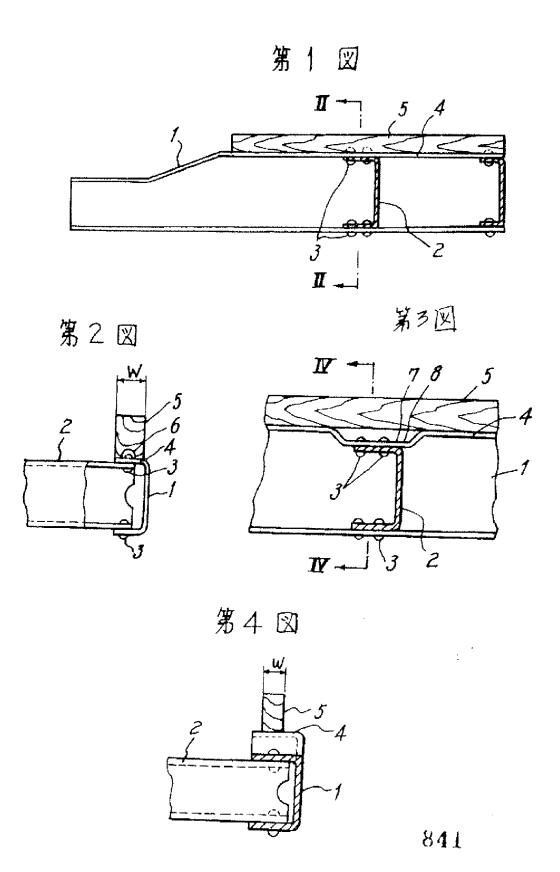
1;サイドレール, 2;クロスメンバ,

5;リベツト, 7; 陥没部,

5;縱根太

微 広波槽

公開実用 昭和 58-3375



実開58-3375 。;